THE KOHO NANKOKU
広報ナンコク
昭和37年11月15日 第37号 (1)
編集発行 南国市広報委員会 高知県南国市東崎1335 電451 川北印刷KK 電379

人生訓

ユーモアの……
……ない一日は
極めて寂しい……
……一日である
（島崎藤村）

南国市の概要

昭和34年10月1日発足
面積 126.13平方粁
人口 男20,896人 女21,238人 42,134人
世帯数 10,779戸

市農業委員決まる

定数一人越して投票

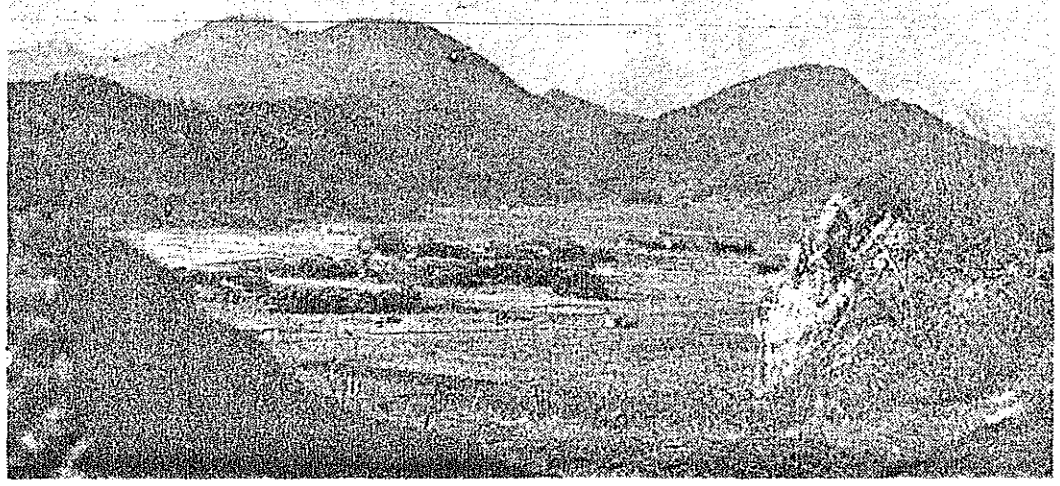
改選の時期となった市農業委員の選挙は、この十五日に行なわれた。前回の選挙の立候補者数は一部辞退もあり、三十一人で争われ、投票の結果最下位当選者の得票数が、法定得票数に達せず落選するという珍事があった。

こんどの選挙は五日に告示されたが、告示日には、やくも八人の立候補者があり、頭初の見込みでは前回を上廻る立候補者があると見られていた。しかし、十日の締切日までに三十三人の立候補届があり、うち二人が辞退し前回同様定数を一人越し投票にもちこまれた。投票日の十五日は悪天候のため出足が悪るく、有権者総数、一万五千八十人投票者数九千四百二十九人、棄権者、五千六百五十一人の投票結果となり六二・五三%と低調であった。

開票は翌十六日、市役所会議室で行なわれ、開票の結果、九千四百二十九票の投票総数のうち、有効票は九千三百五十九票で、無効は七十票となった。

なお、候補者別の得票数（端数を除く）はつぎのとおりで、上位の三十人が当選した。当選者のうち十八人は前職で、新人は十二人とほぼ同数をしめた。

金堂久喜（65前）七二〇
坂本治明（61新）四五二
依光武夫（57新）四〇五
田島正宇（61前）三六八
有沢宏（41新）三七八
松本仁（57前）三七二
由本昇（57新）三七〇
窪田孝雄（56前）三六一
松下秋義（49前）三五一
西村一之（67前）三四七
沢村清春（59前）三二九
小松一（61新）三〇六
田所豊一（61前）三〇〇
由本茂（61新）二九九
中沢芳章（41前）二九八
神田晴重（62前）二八九
四田行幸（41新）二八九
東村利治（61新）二八八
浜田唐茂（61前）二七七
浜田盛彦（70新）二七四
依光義治（59新）二六五
松岡吉寿（49前）二六二
奥宮寺啓吉（47前）二五二
池知三明（61前）二五二
土居芳与（57新）二〇五
沢本一男（46新）二〇二
宮本正勝（61前）一九三
山本寿春（58前）一八一
島内三寿（65前）一七三
斉藤定市（57新）一五五
次点 戸田正美（60）一一五



初冬のしじま　吾北山から伊達野を望む

優勝は後免

第一回市長杯卓球大会

市卓球連盟（会長沢本一男）主催の第一回南国市卓球大会は十月二十一日野田公民館で行なわれ、十チームが参加し熱戦を展開した。その戦績はつぎのとおり。

一位 後免チーム
二位 栄町チーム
三位 三和チーム

建設決まる

物部川合同セキ

難航中であった物部川の合同セキ建設は、山田、父養寺両セキをのぞく六セキで建設することが、今月初め決定した。

これは県、池川市長、六セキ代表らの会合で決定を見たもので、工費四億五千万円、二十八年度から五カ年の継続事業で完成することになっている。

授業に支障

ダンプの排気音で

白本谷小学校は、同校興地から石灰石を搬出するダンプカーやトラックが、学校ぞいの県道カーブと待避所で、エンジンの排気音を高く上げるため授業に支障を生じ、このほど校下民の署名を取って知事と県議会に学校付近の道路付け替えを陳情した。

なお石灰石開発のこう音で瓶岩小学校も被害を受け、学校移転を行なおうという矢先のできごとである。

建具組合発足

会長に島村氏

市内にある建具製造業者は昨年五月、小企業における建具商の今後のあり方などの話し合いをしたさい、組合結成を申し合せその後、準備をすすめていたが、本年四月設立総会を開らきその発足をみた。

また、このほど開らいた役員会で、つぎの事業計画をたてた。

新らしい建具の研究、各地の展示会や先進地の視察、資材の共同購入など、良い製品をより安く販売し、需要者に対するサービス向上を計ることを決めた。

なお、同組合の役員はつぎのとおり。

組合長、島村辰彦、副組合長、吉本高吉、委員、秋月博、島崎利喜、川村秀寿、西村康夫、会計、杉本光男、

小学校に国旗掲揚台

久礼田地区郷友会（野村義実会長）では、母校の久礼田小学校へ国旗掲揚台を寄贈することに決め、建設中のところこのほど完成し、さる一日、落成式を行ない小学校に贈呈した。

市体育協会生る

オリンピックの東京大会もあと二年後にひかえ、体育振興の気運は次第に盛りとりを見せている。

この時代の要請にこたえ、オリンピックの精神の普及スポーツによる市民体位の向上、体育施設の整備促進を計り、明るい南国市を築くことを目的とした、体育協会がこのほど結成された。同会の役員は次のとおり。

会長 沢村武一（市議）
副会長 伊藤俊一（大篠小学長）三宮達郎（市体育指導員）山本知一（市社会教育課長）

なお、理事として、市スポーツ振興審議会委員、地区公民館長、小中学校長その他から二十一人を選び委嘱した。

また、第一回理事会において、顧問に山崎参議、田村井上県議会議員、鈴江、協和農機社長など、十一人を名誉会長に池川市長、参与に市教育長など十人を推挙し、幹事などの役員の構成をした。

なお、同会では、綜合グラウンドや体育館の設置を強力に推進するとともに、各種競技会、体育講習などを行ないスポーツの育成につとめる。

農協訪問マラソン大会

市体育協会では同協会の発足を記念し、来春早々（一月六日）市内の各農協を訪問するマラソン大会を計画している。参加資格は中学生以上の予定。参加を希望する精進をのぞんでいる。

剣道教室を開設

三十七年度文部省より青少年スポーツ活動の研究委嘱をうけた市教育委員会ではこのほど次によりスポーツ教室を開設することとなった。多数愛好者の参加をのぞんでいる。

剣道
場所 スズエ道場
期日 十一月二十四日午後五時三十分より
指導者 毎週火、木、土 川田茂宏氏ほか

卓球教室を開設

場所 後免野田小学校講堂
期日 十一月二十四日午後六時より 毎週土曜日
指導者 沢本一男氏ほか

なお参加希望者は、直接会場または、市教育委員会へ申込めばよい。

市美術展終る

入選者

写真＝吉本敏男、竹内律二、立田健二、中橋強、森田賢二、高橋健二、井上昭夫、吉川俊雄、由崎一喜、池本明、西尾健一、石田道夫、高島俊二、片岡光清、中沢幸雄、村上雄紀、沢村良幸、石田祐典、窪田洋一、田内文夫、中山増三、上居里子、上居正道、水田貴士、池本仁、原孝士、小野山みち子、

洋画＝細川義彰、土居節森寿正、浜田勇、藤村淳、猪野秀子、田島淳己、岡村次、竹中守、原田治紀、入交啓、浜田一枝、中橋辰子、橋詰正利、島村義一、浜田多美、高橋佳兄、中橋恵、中沢節子、永野美鈴、広地利一、関敏夫、

漫画＝山下展弘、古谷栄幸、岩本武雄、沢本英世、

日本画＝久保芳翠、門田政子、伊尾木正太郎、武市瑞邦、

工芸＝藤本福美、松代正一、

彫塑＝島本正勝、

書道＝弘末咲翠、前田孝雄、都築瑞、矢野天道、川内悠溪、松岡美喜夫、中田九外、

審査評

洋画＝作品の傾向に変化があり、すぐれた作品も相当ある。作品の大きいことは必ずしも、すぐれたものではないけれど、意欲的な大作を競って出品されることとなれば、いっそう充実してくる。（筒井）

日本画＝まじめに努力し、よく描いていることに好感が持てる。

仕上げが無難で、これという欠点はない。（下司）

漫画＝県下における漫画家の〝生産地〟でありながら出品者が少なくさびしい。案としてはどれも見ごたえがあるが、それ相応の製作態度でのぞむべきだ。表現方法にひとくふうほしい。（川島）

写真＝作品の差がひどいのはまだ二回目だからやむをえないだろう。上のクラスは仕上げ技術もすぐれ、物語る内容を持っていて、見ごたえがあった。下のクラスはなにを表現しようとしているのか理解に苦しむものも見受けられた。しっかりした意図を持って撮影に当らないのが原因。見る人に理解されることが大切。

スポッチングは最後の仕上げだからもっと入念にしたい。出品はワク張りに統一した方が上い。（朝日）

彫塑、工芸＝出品数が少ないのは、いたしかたないが出品者の層を厚くすることが、よい作品をつくるうえから大切だ。（筒井）

第二回市美術展は、市と高知新聞社の共催により、十一月から十八日まで開らかれた。この美の祭典によせられた作品は、各部門とも昨年を上回り、充実した内容を持っていた。

審査は、筒井広道（洋画、彫塑、工芸）、下司淳月（日本画）、川島三郎（漫画）、光本三千万、磯部天池（書道）、朝日健夫の各氏によって行なわれ、応募総数百六十五点のうち、百三十二点が入選した。

また、児童、生徒の作品一千七百五十点は、市展実行委の審査により、七百十四点が入選した。

公民館活動を促進

分館連絡協議会発足

公民館の分館活動についての理論と、技術を追求し、市の公民館活動の発展に寄与しようという、公民館分館連絡協議会が、このほど結成された。

同協議会は、片山公民館で十月に開らかれた分館長共励会のさいに発会をみたもので、分館長共励会を年三回開らき、分館長などの研修を行なうとともに、分館活動を活発にしようというもの。

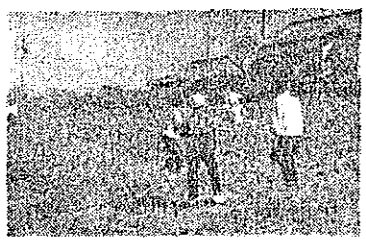
役員は次のとおり。

会長＝利岡富次（三和）
副会長＝島本保儀（瓶岩）、橋本直治（日章）
会計＝鈴江潤次郎（大篠）
監査＝中沢信喜（前浜）、佐竹正章（里潮）

この子らに遊び場を

市内で、こどもたちの専用遊び場があるのは野中地区ほかは大篠、三和両地区に社協や父兄がつくった小型のものがあるだけだろう。

ここ浜改田の西部、琴平神社鳥居付近の砂地畑を見るとよい。遊び場のないこどもたちが集まって、ソフトボールをやっている。雑草はえる斜面である。



〝空の彼方に〟

市展の歌できる

南国市美術展覧会をたたえる〝南国市展の歌〟が完成した。

作詞は関長岡小教諭、作曲は岡崎後免野田小学校長。

㈠
空の彼方にひろがえる
高き理想をめざしつつ
たつきの中よりもり上る
若き呼びをあらわさん
ああ われらの美術の広場

㈡
小さき芽より育ちゆく
仲間はみんな手をつなぎ
大地の底から湧きいずる
若き力をあらわさん
我等がつくりし美術の広場

㈢
真理をきわめる芸術に
体すべてを打ちあて
心の奥からほとばしる
若きいのちをあらわさん
我等がつくりし美術の広場